

三遊亭らん丈 後援会会報

『すべての始まりは交通事故から』

三遊亭らん丈

この会報を丹念にお読みの方は覚えていらしゃることでしょう。ぼくが一九九九年の四月

二四日、青信号の横断歩道を渡っているとき、右折してきた車に撥ねられ、右脚を骨折し、全治四週間の重傷を負ったことを。もちろん今は完治し、何の障害も残ってはいません。

その晩から、ぼくの人生は今までのそれと較べると、微妙な齟齬が生じるようになってしまったのです。つまり、痛みを耐えつつ仰臥したベッドの上でできることといえば、ただ、考えることだけでした。下手な考え休むに似たりとも云えますが、そこで、ぼくは自らの人生を初めて真剣に考え始めてしまったのでした。ぼくは何のために生きているのか、という根源的な疑問が湧いてきてしまったのです。これには参りましたね。答えのない問題を提出さ

れたようなもので、解決不能の難問を前に、ただ途方に暮れるしかなかったのです。

そんなとき唐突に思い浮かんだのが、以前読んだ内村鑑三の『後世への最大遺物』（岩波文庫）にあった、「われわれが死ぬときには、われわれが生まれたときより世の中を少しなりともよくして往こうではないか」と云う言葉でした。これは、『源氏物語』を「日本の土気を鼓舞することのために何をしたか」と否定した内村らしい、真面目すぎて、面白くもなんともない、あまりに真つ当な意見です。

これは、内村の思想の核となったキリスト教の隣人愛に基づく利他主義から来た言葉で、彼が経済学を学んでいなかったことの何よりの証左でしょう。古典派経済学の創始者アダム・スミスは、その著書『国富論』の中で、

「(神の)見えざる手」という言葉を用いて、個々人の経済活動を次のように説明しています。ちよつと長くなつて恐れ入りますが以下に引用します。ただ、余りにも有名な箇所です

ので、「ご存知の方は煩わしいでしょうから、飛ばして下さつても一向に構いません。」「各個人は(中略)その勤労活動をば、生産物が最大の価値を持つような方向にもつてゆこうとできるだけ努力するから、誰もが必然的に社会の年々の収入をできるだけ多くしようと骨折ることになるわけである。もちろん、かれは普通、社会一般の利益を増進しようなどと意図しているわけでもないし、また自分が社会の利益をどれだけ増進しているのかも知らない。(中略)生産物が最大の価値をもつように産業を運営するのは、自分自身の利得のためなのである。だが、こうすることによつて、かれは他の多くの場合と同じく、見えざる手に導かれて、みずからが意図してもしなかった一目的

2001年10月1日発行
第14号 頒価100円
三遊亭らん丈後援会
E-mail:s-ranjo@lycos.ne.jp
〒194-0013 東京都町田市原町田5-13-3-102
携帯電話 090(8726)0796
T E L 042(732)2004
F A X 042(732)2005

を増進することになる。かれがこの目的をまったく意図していなかったということは、その社会にとつて、これを意図していた場合に比べて悪いことではない。自分の利益を追求することによって、社会の利益を増進しようとする意図する場合よりも、もっと有効に社会の利益を増進することもしばしばあるのである。社会のためと称して商売している徒輩が、社会のために良い事をたくさんしたというような話は、いまだかつて聞いたことがない。『アダム・スミス』中央公論新社。もちろん今日ではこの市場万能主義に全面的に依拠することが、いかに多くの経済厚生を損失させてしまつて結果を生んでしまつてかは、みなさんよくご存知の通りです。

けれど、怪我をしたためナイヴになっていたせいもあり、ぼくはアダム・スミスより内村の素朴な利他主義に、より深く共感してしまつたのでした。

そんなテーマ(利他主義)を胸に秘めつつ無事退院し、松葉杖をついて街を歩いてみると、今まで見過ごしていた色んなことに気づかされたのです。例えば、プラットホームからあまりにも離れているために著しい困難を伴つて電車への乗車。あるいはバリアフリーの名のもとに、一見ハンディキャップを持った方に優し

い、エスカレーターやエレベーターが不備なため、バリア不利となつてしまつている現状。等々数え上げればキリがありませんが、意外なことに福祉の街として語られることの多い、生まれ育つた町田市において、バリアフリーの不備を最も顕著に体感してしまつたのでした。これは正直なところ、裏切られたような寂然としない気持ちにさせられたものでした。

そこでぼくは、町田市をバリアフリーより一段と高次なユニバーサル(誰もが負担無く暮らすことができる)シティにしよう、と思ひ定めてしまつたのでした。では、何をしたらいいのか。

取り敢えず、地方自治を学ぼうということ。翌年二月に母校立教大学経済学部への三年次編入学試験を受験し、なぜか無事合格し四月から経済学部生として、地方財政論の泰斗、野呂昭朗教授のもとでそのゼミに所属し、財政学と地方自治の勉強を始めたのでした。つまり、十九年ぶりに再び立教大学の学生として、昼は経済学部の講義を受け、土日と夜間は落語の仕事をするという、一足の草鞋を履く生活が始まつたのでした。

そんな目から見ると、町田市も他市区町村と同じように、実に多くの行政課題があることに、気づかされたのです。たとえば、多摩の他

市に比べて異常に低い福祉予算費比率はこのままで好いのか、あるいは町田市政府予算において義務的経費(人件費等)と投資的経費の比率は果たして適正値であるのか、といった課題は早急に手を付けなければいけないものと考えようになつたのです。

それにも増して、昨年の四月に施行された地方分権一括法によって、国と地方公共団体は従来の主従関係から対等・協力の関係に改めるため機関委任事務が廃止され、自治事務と法定受託事務のみを扱ふようになったのですが、自由裁量権が拡大された町田市政府は、果たしてそれを十分に活用しているのだろうか。また、昨年九月から施行されたPFI推進法や、本年四月に施行された情報公開法は適切に運用されているのだろうか。また、昨年町田市発注の土木・建設工事の入札で地元業者が談合を繰り返していたとして排除勧告を受けた事件は、その後どうなったのか、といった諸々の疑問も解消したくなつたのです。

以上のことを実現させるために、町田市政府を監視する立場に身を置くことを念願するようになつた、らん丈です。右の意見に御賛同の方は是非お力をお貸し下さいませよ、幾重にも御願い申し上げます、この小稿を終えさせていただきます。

『芸人の議員』

三遊亭らん丈

その昔、参議院に全国区があった頃、それこそ各党こそってその知名度にすがって多数のタレント議員を立候補させたもので、盛り

の過ぎたタレントも、芸界の最前線での活躍が見込めなくなったと自覚した者は国会議員を名誉職と心得、功成り名を遂げた者はそれを維持するために、その誘いに喜んで応じていました。そのほんのささやかな例を挙げれば、宮田輝、一龍齋貞鳳先生、大松博文、山東昭子、扇千景、八代英太、石原慎太郎、青島幸男、山口淑子、野末陳平、立川談志師匠等々、枚挙に暇がありません。ただし、上記のうち、談志師匠や石原慎太郎は参議院議員以後も活躍し、その多彩な活動は、皆さんよく存知の通りです。何事にも例外はあるという、ごく分かり易い例。

この他にも、横山ノックや西川きよし先生等、数え上げればキリがないので、もつこれくらしいにしますが、政党とタレントの利害が一致するため、参議院に全国区がなくなつた今も、大仁田厚、橋本聖子等、比例区にその残滓を見ることが出来ます。

ばくは、その後都知事選挙に立候補し、当

選した青島、石原両氏を含めて、いまだかつてただの一度も、タレント候補に投票したことはありません。

ただし、一九四六年の総選挙において一党の「日本正論党」を名乗って当選し、以後連続四期代議士を勤め、ノンキ節で一世を風靡した芸人議員、石田一松を例に出すまでもなく、日本人はタレント候補を割合と厚遇する傾向があるようです。尤も、先般の参議院選挙における「自由連合」のタレント候補は全員落選しましたが、その顔ぶれを見れば、野坂昭如等の例外は、いたものの、ごく当然の結果と云えるでしょう。

ではなぜばくは今まで、芸人の立候補者に票を投じなかつたのでしょうか。大仁田厚を見ても分かるように、どつもいかがわしい人物が多かつたからです。それ以外に、理由はありません。

よく、官僚出身者のほうが、政策に精通しているという意見を聞きますが、これはどつも眉に唾をつけて聴く必要がありそうです。

なぜなら、官僚がそれほど優秀なのでしょうが、という根本的な疑問を解いてくださる官僚

出身政治家が、あまりに少ないからです。たとえば、日本政府はバブル景気が崩壊してから、景気回復を試みるため十回にわたり合計百三十六兆円を投入しましたが、それが一体どれほどの効果を上げたのでしょうか。

もちろん間拔けなタレントより、いくらかはまともな判断力をもつ政治家もいるでしょうが、最近の外務官僚をみて、昔、確実にあつた官僚の気概はもはや見る影もありません。そもそも、戦前において東京帝大出身の官僚は、一切賄賂を受け取らないのを最低のモラルと心得ていたのです。

かほどに荒んだ世の中で、我々はどんな候補者に一票を託せばいいのでしょうか。ばくは今こそ、「政治を感動を持って語る人」が出でよく、声を大にして云いたいです。

なぜなら、今までの日本は経済が僅かではありましたが、成長していたものです。ところが、当分の間はその成長すら覚束なく、むしろ、前年のGDPを下回る年が続きかねない様相を呈しています。つまり、税収が減つてしまつたのです。そうすれば、当然行政サービスの低下を招きかねない事態も現れることでしょう。それを市民に納得させるには、適切な説明責任（アカウンタビリティ）が求められます。それを、ただ云つのでは、住民の納得が得

られにくいものと思われませんが、そこに感動を付与する政治家がいれば、我々は容易に納得できるのではないのでしょうか。

そんなところから、これからの政治家には官僚的な実務能力以上に、人に感動やロマンを

「どうしましヨウ」ご案内

池袋演芸場(左図参照)にて 前売：千八百円

お蔭様で一回目の どうしましヨウ には、多数のお客様がお越し下さいまして、ありがとうございました。ただ、何事も二回目が肝心でして、お客様の入りが落ちてしまうのが通例です。この会はそのことがないように、前回に勝るとも劣らない強力なゲストをお招きしておりますので、今回も是非お越しください。

五十嵐暁郎先生は、立教大学法学部で「政治学原理」や「日本政治論」を担当する看板教授です。らん丈の念願がなつて今回出席してください。面一也先生は早大現代政治経済研究所が勤務先ですが、今年度立教大学の前期に「政治と社会」という授業を担当なさいまして、その関係でらん丈は面識を得たのです。

加えて、今回お招きした新座市の須田市長も豊島区の高野区長も、いずれもらん丈が現在在籍している立教大学経済学科の先輩です。

須田市長は三越の社員、高野区長は古書店店主という異色の経歴を持った首長ですので、従来の政治家とはちよつと違った、なかなか魅力的なお人柄のお二人です。中でも高野区長は、陽昌という雅号で個展まで開く絵心の持ち主です。質問コーナーを設けますので、何なりとお尋ね下さい。

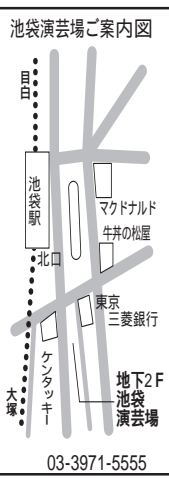
与えられる芸術家としての政治家が望まれると思うのです。そんな候補者ならば、タレントであろうが芸人であろうが、ぼくは喜んで投票することになるでしょう。まさに今求められているのは、政治に感動を、政策にロマンです。

らん丈は十月に引越します

表紙のタイトル下に印刷したように、らん丈は生まれ育った町田市に引越しました。引越し先は原町田といまして、知らない方は草深いイメージを抱くでしょうが、どうしてどうして小田急線町田駅まで徒歩八分という、至って便利なところです。

町田市は来(平成十四)年二月に、市長と市議会議員選挙を行います。どうかくれぐれも注目ください。らん丈がどちらかに立候補するかもしれませんよ。

町田にお知り合いがいらっしゃいましたら、是非らん丈まで、ご紹介ください。くれぐれもよろしくお願いいたします。念のため申し添えますが、嘶家稼業は選挙結果を問わずに続けますので、こちらの方も、未永くよろしく願っています。



En:mailアドレスを開設しました。
ご意見や叱声をどしどしお送り下さい。
s-ranjo@lycos.ne.jp

「三遊亭らん丈」後援会入会要項

入会金(会員証作製費+郵送料)として入会者全員から二千円申し受けます。
年会費は四千円ですが、池袋演芸場で行う「趣味の演芸」の入場券(二千円)を年間で二枚差し上げます。

★入会金二千円+年会費三年分一万二千円
一万八〇〇円、合計二万八〇〇円
年会費を三年分前納して下さった方には、10%割引させていただきます。

★入会金一千円+年会費二年分八千円 七六〇〇円、合計九、六〇〇円
年会費を二年分前納して下さった方には、5%割引させていただきます。

★入会金二千円+年会費一年分四千円、合計六、〇〇〇円
会員証と後援会会報のみ御送りします。

振込先口座

郵便振替・口座番号0010001730458

加入者名・三遊亭らん丈後援会

《東京三菱銀行・町田支店》

普通預金・1897690 三遊亭らん丈

《東京三菱銀行・渋谷支店》

貯蓄預金・2670484 三遊亭らん丈

《三和銀行・町田支店》

貯蓄預金・1096152 三遊亭らん丈

《三井住友銀行・上野支店》

貯蓄預金・7268919 三遊亭らん丈

【問合せ・オフィスらん丈】

携帯電話(090)87226 0796
花踏む 女番劣